

オンライン英語コースを援用したスピーキング授業の実践

— ALC NetAcademy NEXT 総合英語トレーニング中級コースの活用 —

森田 光宏
外国語教育研究センター

1. はじめに

本稿では、オンライン教材として広島大学外国語教育研究センターに導入された ALC NetAcademy NEXT 中級コースを援用した授業実践の報告を行う。筆者はこれまで、ALC NetAcademy 2 のスーパースタンドコースでの学習を促進するために、授業内での小テストを用いた実践報告を行ってきた（小泉・森田，2011；森田，2009）。これらの実践は、教員がいかに少ない負担で、学習者の授業時間外での英語学習時間を増やすことができるかを目的としたものである。本実践では、小テストに加えて、授業内での活動にもオンラインでの事前学習が必要になるような取り組み、つまり、ブレンディッド・ラーニング（Blended Learning）型の授業実践を行い、授業外での英語学習時間をさらに増やすことを目的とした。本稿では、まず、教材である ALC NetAcademy NEXT 中級コースの内容の紹介、そして、実践内容の記述を行う。その後、実践後に行った授業改善アンケートの結果と ALC NetAcademy NEXT 中級コースの教材としての評価アンケートの結果、そして、受講生の学習ログから得られた授業時間外での学習時間の報告から、本実践の効果を考察し、今後の改善点を述べる。

2. ALC NetAcademy NEXT 総合英語トレーニング 中級コース

広島大学では平成 28 年度 10 月に ALC NetAcademy NEXT 総合英語トレーニング 中級コース（以下、中級コースと略す）を導入した。このコースはリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの四技能の養成を図ると共に、語彙力と文法力の強化を目的としている。対象とする英語習熟度は、TOEIC® L&R で 450 点程度であり、目標としては 600 点を目指す内容となっている。コースは表 1 に示すサブコースに分かれており、実力テストを除き、それぞれが複数の学習ユニットと Review ユニットから構成されている。

表 1 ALC NetAcademy NEXT 中級コースの構成

サブコース	ユニットの種類	ユニット数
リスニング&スピーキング	学習ユニット	32
	Review ユニット	8
リーディング&ライティング	学習ユニット	15
	Review ユニット	3
文法インプット&アウトプット	学習ユニット	13
	Review ユニット	3
実力テスト		2

本実践では、「リスニング&スピーキング」及び「文法インプット&アウトプット」を用いたので、それぞれの学習ユニットの特徴を紹介する¹⁾。

2.1. リスニング&スピーキング

このサブコースの特徴は、一つの英文素材をリスニングとスピーキングの両方で用いて、繰り返し学習を行うことで、確実にリスニングとスピーキングの力を伸ばすことを目的としている点である。リスニングとスピーキングのどちらからでも始めることができるが、推奨されているのは、リスニングでインプットを十分に行い、スピーキングでアウトプットを行う順序である。リスニングでは、表2の6つのSTEPを順に行い、繰り返しインプットを受ける。

表2 リスニング学習ユニットの内容

STEP	学習内容	学習内容の詳細
1	練習問題	英文を聞いて、3つの設問に答える
2	語彙フラッシュカード	10の重要語句を学習する
3	語彙ドリル	学習した英語の語句に対応する日本語訳を選択する
4	スラッシュ・リスニング	意味のかたまりで区切られた音声を聞いて、英文を理解する練習
5	スピード・リスニング	より速い速度で英文を聞いて、速度になれる練習
6	ディクテーション	学習した英文を聞きながら、タイプをする

「総合英語トレーニング 中級コース コースガイド」²⁾を参考に筆者が作成

スピーキングの学習ユニットでは、リスニング学習ユニットで学んだ英文を実際に口に出す練習を行う。スピーキングの学習ユニットは表3の3つのSTEPで進む。

表3 スピーキング学習ユニットの内容

STEP	学習内容	学習内容の詳細
1	リピーティング	リスニング学習ユニットで学んだ英文を1文ずつ口に出して練習する
2	長文音読	学習した英文の全文を声に出して読む
3	ロールプレイ	学習した英文が会話の場合に、指定された人物のせりふを言う

「総合英語トレーニング 中級コース コースガイド」を参考に筆者が作成

STEP1のリピーティングとSTEP2の長文音読では、学習者の音声は録音され、学習者はモデルと聞き比べることができる。STEP1では、聞き比べるだけでなく、録音が音声認識技術により視覚化されるので、モデルのイントネーションやリズム、スピードを視覚的に比較することができる(図1参照)。

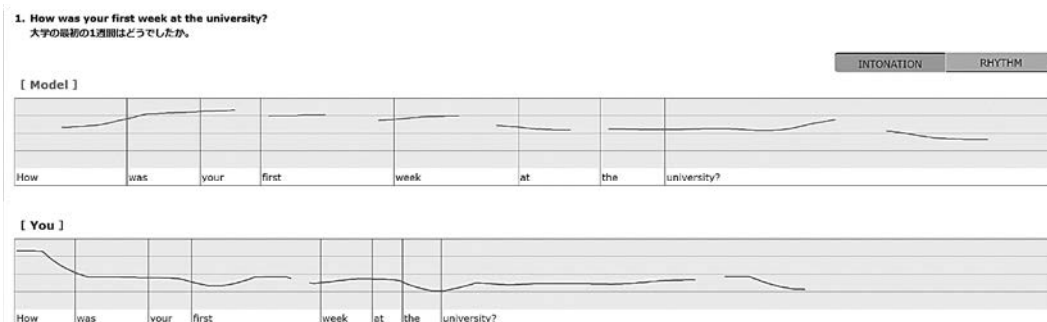


図1 スピーキングの学習ユニットにおける録音音声の視覚化

2.2. 文法インプット&アウトプット

文法インプット&アウトプット（以下、文法コースと略す）は、リスニング&スピーキングと同様に、同じ英文をインプットとアウトプットに用いることで、文法知識の定着を図るコースである。基本的な学習ユニットの構成も、表4に示すように、リスニング&スピーキングとほぼ同じである。異なるのは、英文を聞くのではなく、読むことが主となるため、文法インプットのSTEP4ではスラッシュ・リーディングを行い、STEP5では書き写しを行うことである。また、文法アウトプットのSTEP1においても、ランダムに配置された語句を並べ替える練習を行う点で、リスニング&スピーキングとは異なる。

表4 文法インプット&アウトプットの内容

ユニット	STEP	学習内容	学習内容の詳細
文法インプット 学習ユニット	1	練習問題	空所に入る適切な語句を選ぶ
	2	語彙フラッシュカード	10の重要語句を学習する
	3	語彙ドリル	学習した英語の語句に対応する日本語訳を選択する
	4	スラッシュ・リーディング	意味のかたまりで区切られた英文を読んで、英文を理解する練習
	5	書き写し	学習した英文の一部をタイプする
文法アウトプット 学習ユニット	1	並べ替え	語句を並べ替え英文を完成する
	2	リピーティング	英文を1文ずつ口に出す

「総合英語トレーニング 中級コース コースガイド」を参考に筆者が作成

3. スピーキング授業における実践

3.1. 対象クラス

本実践は、2017年度に筆者が担当した「コミュニケーションIA」で実施した。「コミュニケーションIA」は1年次前期に開講される必修科目であり、スピーキング力の養成を中心とするものである。クラス編成は学部群に分けて行われ、入学時に学生から自己申告された大学入試センター試験の結果に基づいて、習熟度別に分けられている。表5は5月に実践対象となった学生が受験したTOEIC® IPL&Rの結果である。

教育学部及び理学部・生物生産学部については、中級コースを始めるのに最適な450点程度の平均点である。また、法学部が他の2学部に比べて比較的平均点が高いが、それでも平均点は600点未満であり、600点を目指す中級コースに適した学生群だと考えられる。

表5 5月実施のTOEIC® L&Rテストの結果

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
法学部 (n=28)	225	810	548.04	119.38
教育学部 (n=22)	310	635	456.82	72.47
理学部・生物生産学部 (n=28)	360	505	472.68	54.16

3.2. 実践の目的と内容及び授業計画

本実践では、中級コースの学習内容に合わせて、単に授業外で中級コースの学習を課し、その学習履歴を確認するだけでなく、オンラインでの学習を一斉授業と関連付けるブレンディッド・ラーニングを取り入れた。学習すべきユニット（教材での実際の表示に合わせてU000と表記している）は表6のように示し、第1回授業で配布した。この授業では、教科書は用いず、中級コースのみを教材とした。

表6 コミュニケーションIAの授業計画

回	ALC L&S	ALC 文法	授業内活動	備考
1			オリエンテーション	ALC実力テストの受講
2	U001	U001	発音学習 (リズム, イントネーション, /r/ と /l/)	
3	U002	U002	発音学習 (省略形, 音が変わる, /f/ と /h/)	
4	U003	U003	発音学習 (音がつながる, 音が消える, /b/ と /v/)	
5	U004	U004 & U005	発音学習 (/θ/ と /s/, /ð/ と /z/)	
6	Review 1		Show & Tell	ビデオ撮影
7	U005	U006	発音学習 (/s/ と /ʃ/, /n/ と /ŋ/)	
8	U006	U007	Sing a song	グループ練習
9	U007	U008	Sing a song	グループ練習
10	U008	U009	Sing a song	グループ練習
11	Review 2		Sing a song	発表
12	U009	U010	Group Presentation	準備
13	U010	U011	Group Presentation	準備
14	U011	U012	Group Presentation	準備
15	U012	U013	Group Presentation	準備
16	Review 3		Group Presentation	発表

毎回の授業は小テストから開始した。小テストは文法コースをしっかりと学習してきたかを確認するために行った。学習する文法項目により異なる出題形式を用いた。例えば、U001では受動態を扱っているので、以下のように、動詞を与え、英文を完成させる形式を用いた。小テストで用いる英文は、すべて学習ユニット内で使用されたものである。

I. 日本語に合うように、[] 内の語を使って文を完成せなさい。

(1) この機械は日本人科学者によって発明されました。

This machine [invent] by a Japanese scientist.

(2) 総会は来年パリで開かれます。

The general meeting [hold] in Paris next year.

(3) その地方は昨日、大きな地震に襲われました。

The district [hit] a big earthquake.

(4) その古いテーブルはほこりで覆われていました。

The old table [cover] dust.

(5) 私たちは彼の奇抜なアイディアに驚かされました。

We [surprised] his novel idea.

次に、リスニング&スピーキングの指定されたユニットのリスニングをしっかりと学習してきたかを確認するためのディクテーションを行った。次のように、語句を空欄として、3~5回ほど音声を再生する間に、空欄を埋めさせた。

II. 音声を聞いて、() 内に適切な語を書き入れなさい。

W: How was your first week at the university?

M: It was great! My classes are really ①_____.

W: Tell about your ②_____.

M: On Monday, Wednesday and Friday I have ③_____ in English ④_____.

(省略)

小テストが終わった後は、授業内活動を行った。第2回から第5回及び第7回の授業は発音学習であった。これらの発音学習は中級コースと連動させて行った。第2回を例にとって説明をする。中級コースのスピーキングでは、図1に示したようにリズムやイントネーションをモデルと視覚的に比較することが可能である。まず、2回目の授業に来る前にU001の学習を済ませ、特にリズムやイントネーションを意識して例文を録音するように指示をした。第2回の授業では、甲南大学のサイトで公開されている「英語発音入門－English Pronunciation Practice for Japanese Learners－」³⁾を用いて、リズムとイントネーションについて別の視点から確認し、さらに、/r/と/l/の発音について学習をした。これらの発音学習の後で、受講生はU001で学習した例文を個人及びペアで練習した。その後、練習の成果を確認するために1人ずつ教員の前で発音をし、教員はすぐに合否の判定とフィードバックを与えた。これは、効率的に発音を確認し、即時的なフィードバックを与えるのに適した方法である「グルグルメソッド」が用いられた(静, 2009)。受講生は一つの例文で合格すると、次の例文に挑戦することができ、合格するごとに小

テストに加点された。

第3回以降の最終16回目まで、同様に、それまでの授業で学習した発音の要点を意識して、各ユニットの例文を繰り返し練習し、録音してくることを課題とし、その成果を授業内でグルグルメソッドを用いて確認した。また、途中にある Review 1~3 では、それまでのユニットで学んだ例文からランダムに5文を出題し、グルグルメソッドを用いて確認をした。

第6回の Show & Tell では、受講生が自分の紹介したいものをクラスに持ち込み、英語で紹介をした。紹介の様子は個別にビデオ撮影を行い、次の週までに教員がビデオを見て評価とフィードバックを行うと共に、学生も自分のビデオを見て、自己評価を行った。この活動は、学生たち自身が英文を考え、口に出してみることで、それまで学習したリズム、イントネーション、子音の発音を統合的に使用する機会の提供を意図している。

第8回から第10回では発音学習はせずに、小テストとグルグルメソッドでの例文確認の後は、グループで英語の課題曲を歌う練習を行った。第11回ではグループごとに教員の前で歌い、教員は評価及びフィードバックを行った。グループでの練習を通じて、それまで学習した英語のリズムとイントネーション、子音の発音や音の変化をグループ内で確認し合うことで、互いに足場がけを行い、より効率的な学びの場を提供することを意図した。

第12回から第15回はグループで「広島大学をより良くするには」というトピックについて、グループ発表の準備を行い、第16回にクラスの前で発表を行った。発表はビデオ撮影され、教員とクラスメイトはそのビデオを次の週までに見て、評価及びフィードバックを行った。また、自分のグループ全体及び自身の発表についても評価を行った。このグループ発表は Show & Tell 及び歌を歌う活動の統合版という位置付けである。つまり、学生たち自身が考えた英文を互いに確認し合い、練習することで、これまでの学習内容を振り返り、応用し、互いに高め合うことを意図している。

4. 実践の結果

4.1. 授業改善アンケートの結果

広島大学では授業期間の終了時にオンラインでの授業改善アンケートを実施している⁴⁾。アンケート項目は大学共通の項目として、選択式で回答するものが12項目、自由記述が2項目設定されている。さらに、外国語科目用として追加した4項目がある。これらの項目の中から、本実践にかかわりのある項目として、以下の6項目について報告する。これらの項目は全受講者78名のうち64名(82.05%)から回答を得た。

大学共通項目

- 「この授業に関連する授業時間外の学習（予習、復習、課題等）に週平均でどの程度の時間を使いましたか。」
- 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。

外国語科目のみの項目

- 小テストや提出課題、授業内での指名などを通じ、学習したことのフィードバックや確認は多くなされていましたか。
- 宿題や課題、予習などの量と内容は適切でしたか。

- 教員は、授業が単調にならないよう、いろいろな工夫をしているように思いましたか。
- あなたはこの授業を受けて、この外国語の知識や技能が向上したと思いますか。

大学共通の項目である「この授業に関連する授業時間外の学習（予習，復習，課題等）に週平均でどの程度の時間を使いましたか。」は、図2に示すように、1時間までが過半数を占め、次いで2時間までが36%を占めた。中級コースは、1ユニットあたり30分～40分程度を学習時間の目安としているため、リスニング&スピーキングからそれぞれ1ユニット，文法コースから1ユニットの合計3ユニットを合わせて90分程度の授業外学習時間となる。受講生はこの想定学習時間と同程度，もしくは少ない学習時間を回答しており，期待される学習時間程度には授業外で学習をしたと考えられる。しかしながら，この学習時間は1時間区切りであり，また，自己申告であるため，サブコースごと，学習ユニットごとの詳細な学習時間を次節（4.2）で検討することとする。

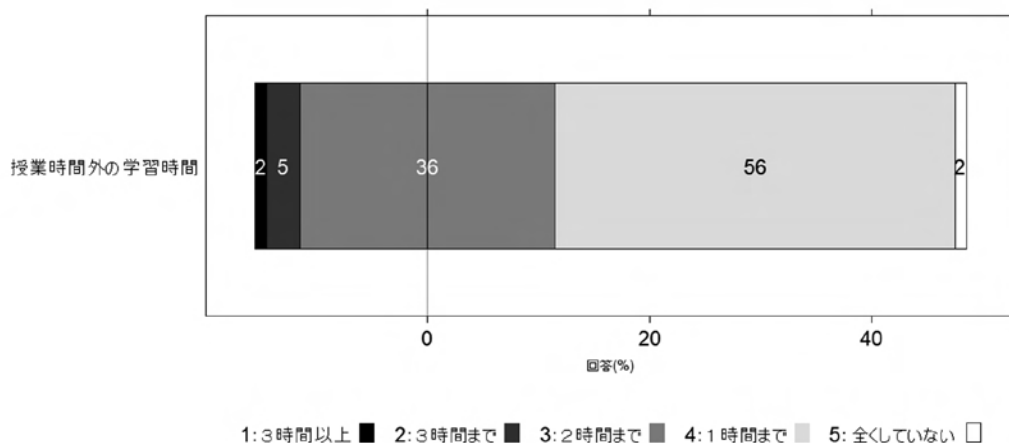


図2 週当たりの授業外での学習時間

図3では，総合的に見た授業の評価及び外国語科目に特化した4つの項目についての結果をまとめているが，否定的な2種類の回答（「全くそう思わない」と「そう思わない」）はいずれの項目に対しても見られなかった。特に，総合的に満足をしたかと言う項目については61%が「強くそう思う」，28%が「そう思う」と回答しており，満足の高い授業が提供できたと考えられる。また，最も重要と考えられる外国語の知識や技術の向上についての項目においても，「強くそう思う」が42%，「そう思う」が53%を占め，外国語の授業としても高い評価を得た。

授業の内容に関する項目である，フィードバックの確認及び教員の工夫については，グルグルメソッドそのものが個別フィードバックを効率的に行う工夫であることから，これら2つの項目が良い評価となったと考えられる。また，歌を歌う活動やグループでの発表も，それぞれが異なるフィードバックの場となり，また，授業が単調にならないようにするための活動であるため，受講生がその意図を感じた結果が反映されているのであろう。

宿題・課題の量と質についても，「強くそう思う」が36%，「そう思う」が55%を占め，受講生から見ても適当な量と質であったと受け止められていることが分かる。言い換えれば，すでに

報告した週当たり1時間から2時間程度の授業外学習量は適当であったと受け止められ、中級コースの質も適切であったと評価されたと考えられる。

授業改善アンケートのこれらの項目から、本実践は受講生から好意的に受け止められたことが分かる。特に、本実践の教材である中級コースについては評価が高かったことが伺える。次節では、この教材そのものに焦点を当てたアンケート、そして、学習履歴を検討することで、教材としての評価及び受講生の授業外学習時間の詳細を明らかにする。

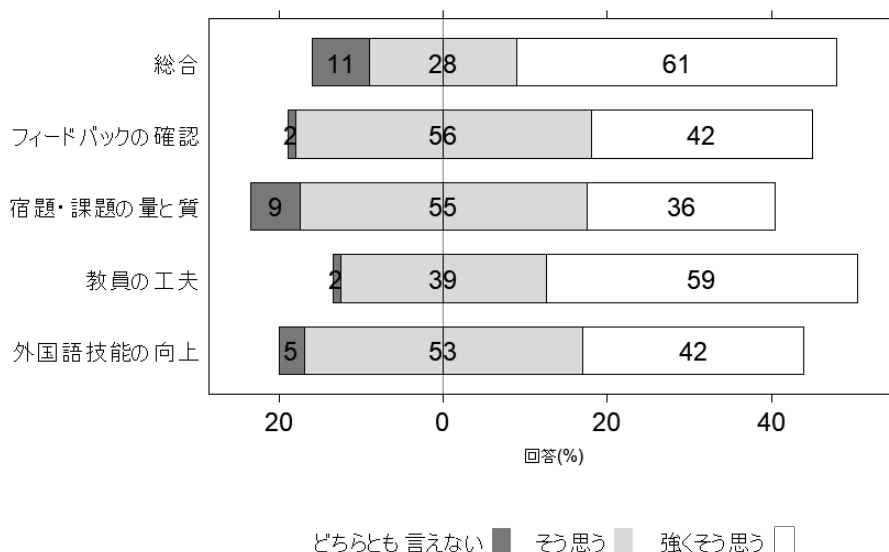
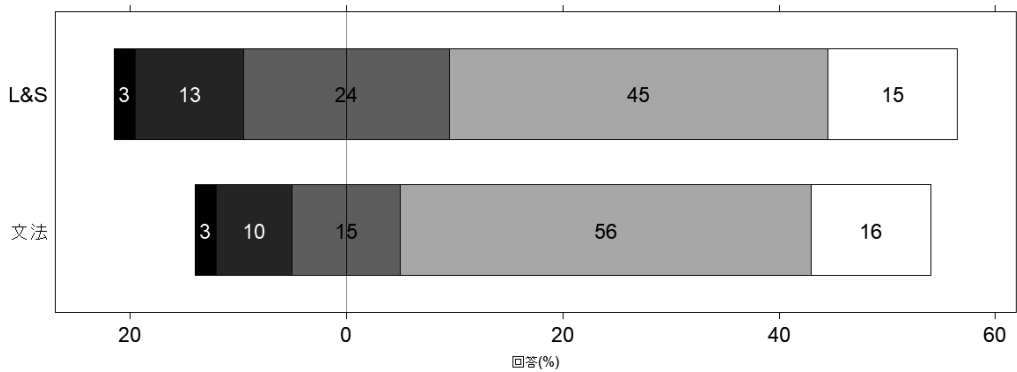


図3 授業改善アンケートへの回答

4.2. ALC NetAcademy NEXT 中級コースについてのアンケート及び学習ログの結果

授業改善アンケートとは別に、教材としての評価を知ることがを目的として、リスニング&スピーキングと文法コースがそれぞれ英語の向上に役に立ったかを質問した (n = 78)。図4にあるように、リスニング&スピーキング (図中ではL&Sと表記) については、15%が「かなり役に立った」、45%が「ある程度役に立った」と回答しており、6割の受講生が肯定的な評価をしている。また、文法コースについては、16%が「かなり役に立った」、56%が「ある程度役に立った」と回答しており、72%の受講生が肯定的な評価をしている。この結果は、前節で見た「宿題や課題、予習などの量と内容は適切でしたか。」に対する受講生の回答ともおおそ一致する。

それでは、実際に教材をどの程度学習したのかを見てみる。図5はリスニング&スピーキングのそれぞれの学習ユニットへのアクセス回数と文法コースの学習ユニットへのアクセス回数である。ここでのアクセス回数は、1ユニットに複数回アクセスしても、1回とカウントしている。リスニング&スピーキングは、12ユニットが課されており、リスニングもスピーキングも学習ユニットへのアクセス回数では12回、つまり、課されたユニットをすべてアクセスした受講生が最も多かった。しかしながら、スピーキングでは、12回すべてにアクセスをした受講生はリスニングに比べて少なく、リスニングと比較するとアクセス回数にばらつきがあることが分かる。また、文法ユニットは13ユニットの学習を課したところ、13回すべての学習ユニットへア



全く役に立たなかった ■ あまり役に立たなかった ■ どちらかとも言えない ■ ある程度役に立った ■ かなり役に立った □

図4 各コースが英語の向上に役立ったかに対する回答

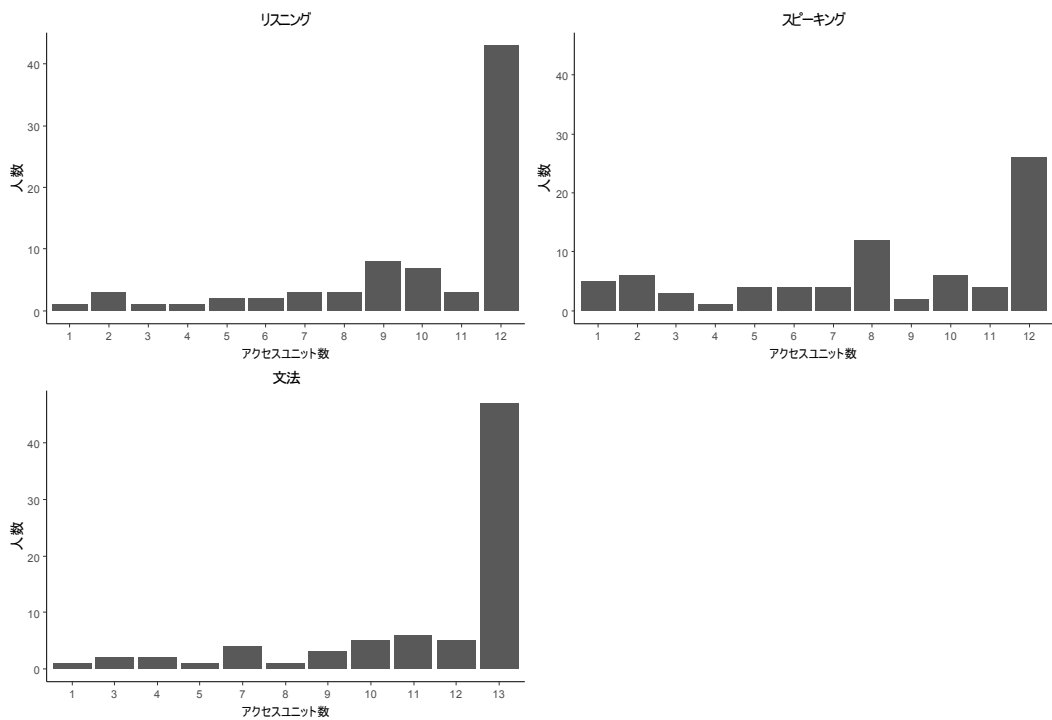


図5 各コースの学習ユニットへのアクセス回数

アクセスした受講生が最多であった。

また、図6は、各学習ユニットへのアクセス人数である。この図から分かるように、学期当初のU001はほとんどの受講生がアクセスしているのに対して、学期が進むにしたがってアクセスが減っていることが分かる。リスニングと文法については比較的緩やかな減少であり、U012で

もリスニングでは3分の2以上、また文法でも半数以上の受講生がアクセスしている。一方で、スピーキングについては、U002 から急激な減少が始まり、U003 までから U008 まで回復と減少を繰り返すものの、U009 で大きく落ち込み、その後、緩やかに減少し、最終的に U012 ではアクセス数は受講者の半数を下回った。

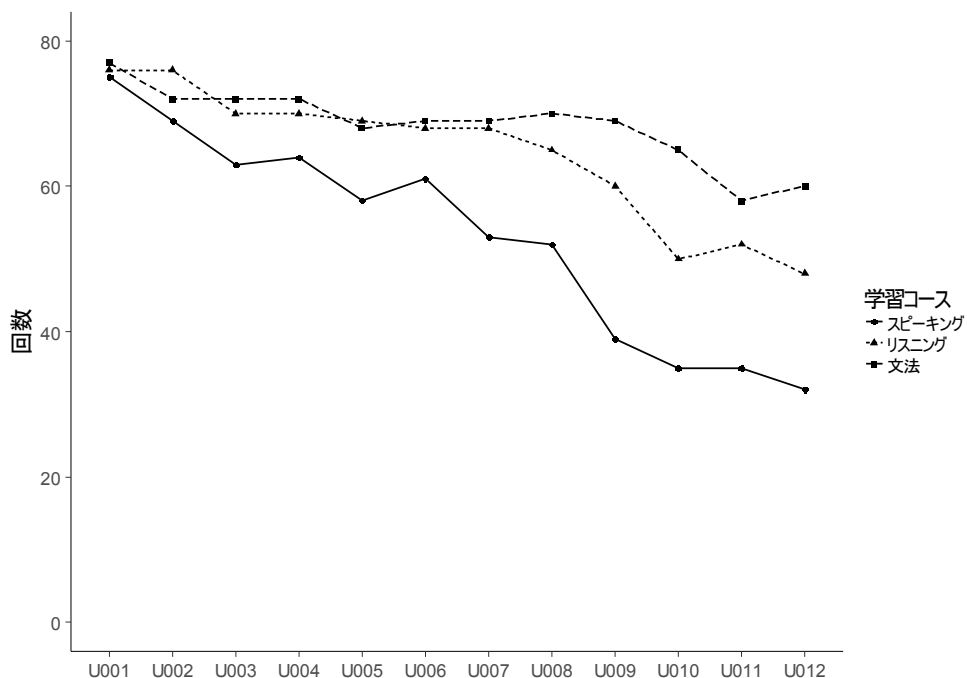


図6 各学習ユニットのアクセス人数⁵⁾

図7は各ユニットでの平均学習時間とその標準偏差の推移である。ただし、集計に当たっては、学習時間が極端に短いもの（5分以下）と極端に長いもの（90分以上）は除外した。リスニングではU001において25分を超えた平均学習時間から始まり、U012まで20分以上の平均学習時間を示している。また、文法コースではU001が15分程度の平均時間学習から始まり、U012までおよそ平均としては15分弱を維持している。リスニングも文法コースも、学習時間の標準偏差が10分以上あるユニットが多く、学習者により学習時間のばらつきが大きいのが特徴である。一方で、スピーキングではU001の24分が最長であり、それ以降、学習時間は下がり、最終的には10分を少し上回る学習時間となる。また、スピーキングでの学習時間の標準偏差は、ユニットが進むごとに短くなっている。これは、学期当初にマイクの設定などで時間がとられ、見かけの学習時間が長く、学期を経るごとに設定する時間が短くなっていったことを反映していると考えられる。

中級コースが想定する1ユニットあたりの学習時間は、30分～40分程度であるので、リスニングでは想定通り10分ほど短く、文法コースやスピーキングではかなり下回っている。原因としては、文法コースについては、練習問題だけを集中的に行い、その他のSTEPにそれほど時

間を費やさなかった受講生が多くいたことが考えられる。これは、既習の文法項目が多かったこと、また、授業内で課された小テストも練習問題に基づいて出題されたため、練習問題の学習で十分であると考えた受講生が多くいたと考えられる。スピーキングの学習時間の減少については2つの原因が考えられる。まずは、次節(4.3)の自由記述からも分かるように、スピーキングに必須の録音機能での不具合が多かったため、学習履歴が残っていない可能性がある。また、学習の途中で不具合が起こった場合に、最初からやり直しをしなければならず、その際には、すでに学習した部分には時間をかけずに進んだ可能性がある。第二の理由としては、クラス内のグルグルメソッドにおいてはスピーキングで練習した英文を用いて発音確認するが、クラス内でも発音を練習する時間があるため、その練習だけで十分であると考えた受講生がいるものと考えられる。

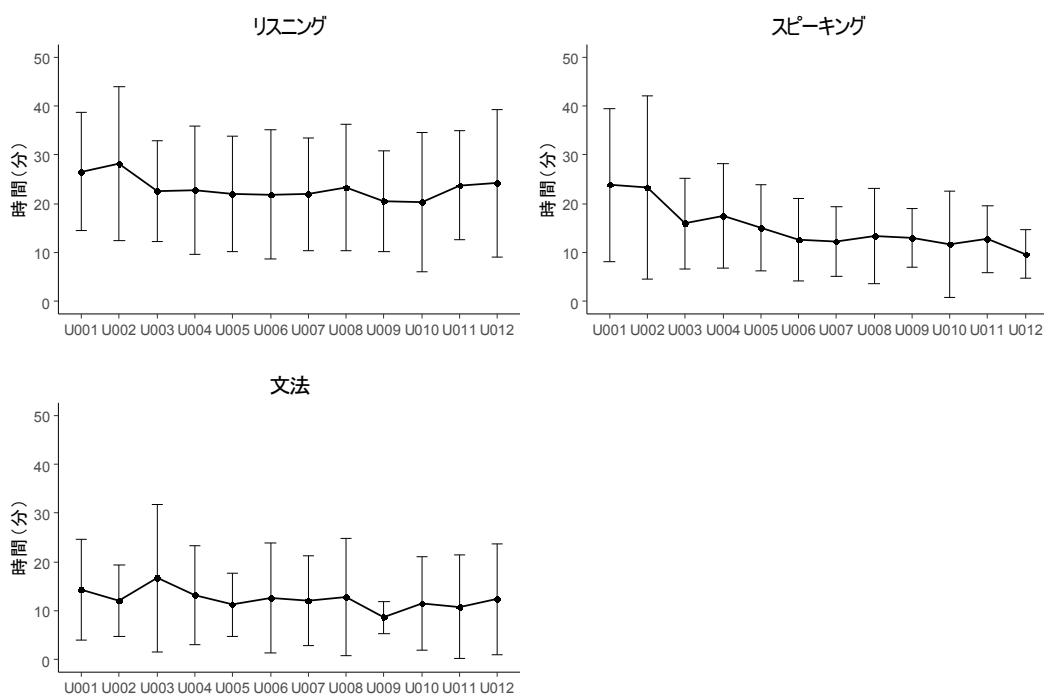


図7 各学習ユニットでの平均学習時間⁶⁾

4.3. ALC NetAcademy NEXT 中級コースについての自由記述アンケートの結果

自由記述アンケートでは、教材及び学習システムなどについて、良かった点及び改善すべき点について記述を求めた。まず、良かった点について表7にまとめた。

ALC NetAcademy NEXT の特徴的な機能であるスピーキングの練習ができることが良い点として最も多くの受講生から挙げられた。また、コースとして設定されているリスニング及び文法もそれぞれ良い点として挙げられている。また、同じ英文を用いて繰り返し練習する形式についても良い点として挙げられた。

次に、改善すべき点を表8にまとめる。

表7 良かった点についての回答まとめ

カテゴリー	意見の数	意見の例
スピーキング練習 発音練習 録音機能	19	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングが録音できる点。 ・楽しくスピーキングできた。 ・オーバーラッピングができたことで自分のスピードを上げることができた。 ・マイクと連動していたところ。 ・自分の発音、イントネーションを確認できる。 ・ネイティブな発音を聞いて真似することができる点。 ・自分の発音を録音して、グラフの形でお手本と比較できたので、自分の弱点やどこが間違えているのかが分かりやすく、良かったです。 ・グラフで表されることによって自分のイントネーションやリズムについて意識することができる点。
文法問題	4	<ul style="list-style-type: none"> ・文法の復習がしっかりできた。 ・文法問題に解説がついていたこと。
繰り返し学習	4	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ内容を違う形で繰り返し学習することで定着しやすくなった。 ・否が応にもダイアログを覚えてしまうくらいに、繰り返させるところが良かった。
リスニング	3	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングなどの機能。 ・リスニング力が高まった。
難易度	2	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度が丁度良い。
その他	17	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい。 ・オンラインでどこからでもアクセスできる。 ・デザイン。 ・解答の解説が分かりやすい。 ・英語が好きになる。

表8 改善すべき点について回答まとめ

カテゴリー	意見の数	意見の例
マイクの不調	33	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクの調子が悪くなる。 ・音声は、ちゃんと言っているのに聞き取ってくれなくて何回も同じことを言われたことがあって面倒だった。 ・途中からマイクが使えなくなり、音声チェックができなくなってしまったので改善してほしいです。
システムの不具合	9	<ul style="list-style-type: none"> ・システムエラーを起こすと結果が飛ぶこと。 ・中断されると最初からになる点。 ・途中入れなくなることがあった点。
学習量	2	<ul style="list-style-type: none"> ・1ユニットの学習量が多い。

改善すべき点として最も多かったのは、マイクの不調である。マイクの設定には Adobe Flash Player を用いているため、使用しているブラウザの設定などにより、使うことができなかったり、ブラウザや Adobe Flash Player のアップデートにより、使用ができなくなったりしたという事例が多く見られた。また、マイク音量の設定や録音環境などによりマイクが音声をうまく拾えない場合もあり、繰り返し録音を試みてもうまく録音できず、学習が進まないといったことが別に報告されている。システムの不具合として、オンラインでの学習が途中で進まなくなったり、中断した場所から学習を再開しようとしても、最初から学習をしなければならなかった事例が報告されている。

5. まとめと今後の改善

本実践では、ALC NetAcademy NEXT の中級コースを、授業内での小テスト及びグルグルメソッドを用いた発音練習と連携させることで、授業外の英語学習時間を増やす試みを行った。授業改善アンケートで、ほとんどの受講生から本実践が英語技能の向上に役立ったとの回答を得たことで、授業実践としては一定の評価を得たものと考えられる。

また、本実践で用いたリスニング&スピーキングと文法コースについても、教材として高い評価を得た。特に、リスニングは授業内でディクテーションを行うことで、授業外の学習回数及び学習時間をある程度確保できた。

文法コースでは、小テストとして文法項目を確認することで、毎週の授業外での学習を促進した。しかしながら、学習時間が短い点は改善の余地があると考えられる。学習時間の現象が既習の文法項目であるために学習時間が減少したのであれば、それほど心配はないが、小テストの出題が学習ユニットからのみであるがために、練習問題以外の STEP を読み飛ばしているのであれば、文法項目そのものの習得につながらない可能性もある。その点を踏まえて、例えば、小テストに応用問題を出題することで、単なる暗記であるのか、学習をしていたのかを区別できるのではないかと考える。

スピーキングについては、特に学期終盤になると、学習回数と学習時間の両方が不十分である。しかし、この原因がマイクの不具合である可能性もあり、この場合には、技術的な問題として開発元への不具合情報の定期的な提供を通じて、システムの改善を促すことが最善であると考えられる。また、広島大学内のコンピュータ関連のサポート窓口と連携し、対処することが考えられる。一方で、マイクの不具合とは別に、授業内での実践内容に起因する場合、つまり、グルグルメソッドを行う前の練習だけで十分であると考えている受講生がいるのであれば、事前に ALC NetAcademy NEXT で行った例文の録音も評価の対象とすることが考えられる。これは特に、発音学習が終わった後の第 8 回の授業からは、それまで学習した発音のポイントを踏まえた英文の音読ができているかを ALC NetAcademy NEXT 上の録音を担当者が聞くことで評価し、さらに、授業内でもグルグルメソッドを用いて評価をすることで、受講生をより授業外の学習に向けさせることができるのではないかと考える。その際には、5 つの例文のうち、2 つを事前に、3 つをグルグルメソッドを用いて評価するなどすることで、同じ例文を繰り返し評価することを避けることが可能である。

注

1) ALC NetAcademy NEXT の詳細については、『完全攻略！ALC NetAcademy NEXT』もしくは以下のサイトを参照のこと。

<https://www.alc-education.co.jp/nanext/>

2) ALC NetAcademy NEXT に付属のオンラインガイド。

3) <http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/>

4) アンケートの詳細及び結果は以下のサイトで公開されている。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU_self_evaluation/self_evaluation

5) 文法コースは U013 までが学習範囲であったが、リスニング&スピーキングコースの範囲に合わせて U012 までの学習ユニットの結果を示す。

6) 図 7 についても注 2 と同様に、文法コースについては U012 までの結果を示す。

参考文献

アルク文教教材編集部 (2016). 『完全攻略！ALC NetAcademy NEXT』. アルク

小泉由紀子・森田光宏 (2011). E-learning による授業外英語学習の促進を目指して—授業内小テストによる学習確認と教員によるその活用 (山形大学基盤教育院英語における事例), 『東北英語教育学会紀要』, 31, 113-119

静哲人 (2009). 『英語授業の心・技・体』. 研究社

森田光宏 (2009). 外国語 e-learning 教材の学習効果—山形大学人文学部における事例—. 『東北英語教育学会紀要』, 29, 87-98

ABSTRACT

Utilizing an Online English Learning Course in English Speaking Class

Mitsuhiro MORITA

Institute for Foreign Language Research and Education

Hiroshima University

This paper reports a classroom practice in which an online English learning course, the ALC NetAcademy NEXT intermediate course, was used for blended learning with regular English speaking classes. Students were required to study one unit from listening, speaking, and grammar sub-courses before coming to the class. In the class, the students' learning was checked using a variety of activities, including quizzes. For grammar, a grammar quiz was administered. For listening, students took a dictation with blanks to fill in. For speaking, an instructor individually checked students' pronunciation of English sentences by using the "Grugru method." This blended learning lasted for 15 weeks. The speaking classes and online English learning course were evaluated by students' responses to a questionnaire and an online learning log. The results showed that the students considered the combined speaking classes and online learning course to be a useful and effective way of improving their English skills. The learning log indicated that the listening sub-course was the one most accessed and learned by the students. The students accessed every unit of the grammar sub-course, but the time they spent on it gradually decreased towards the end of the semester. The speaking sub-course was not accessed or learned by the students as much as expected. The final section of the paper discusses some issues impeding students' online learning and suggests some improvements for future practice.